

米CPI、約39年ぶりの高水準で 早期利上げ観測を後押し

ポイント① 米CPI、39年半ぶりの高水準

1月12日に発表された12月の米CPI(消費者物価指数)は、事前の市場予想通り、前年同月比で7.0%上昇し、39年半ぶりの高水準を記録しました。一方で、前月比では+0.5%と、ガソリン価格の下落を受け、11月の同+0.8%から減速する結果となりました。また、変動の大きいエネルギーと食品を除くコア指数では、前年同月比で+5.5%、前月比で+0.6%と、いずれも11月の水準を上回る伸びを見せています。

ポイント② 一部項目で前月比の伸びが鈍化

項目別では、エネルギーが前月比で0.4%低下したものの、帰属家賃や中古車などの多くの項目で、価格の上昇が続いています。一方で、食品や新車などの一部項目では、前月比ベースでの伸び率鈍化が確認でき、過度なインフレ圧力は徐々にピークアウトしつつあるという見方もできそうです。とはいえ、依然としてFRB(米連邦準備制度理事会)の当初想定よりも、足元の物価上昇は根強く、かつ広範に及んでいるほか、今月11日にパウエルFRB議長が「高インフレが定着しないよう手段を尽くす」姿勢を表明していることから、早期利上げに影響を及ぼす蓋然性は低いと考えられます。

ポイント③ CPI発表後、米長期金利は一時低下

12月のCPIは高水準となったものの、事前の市場 予想と一致したことで、上振れリスクが警戒されてい た市場では、持ち高調整の債券買いが入り、米10 年債利回りは一時低下、米ドルは対円で下落する 展開となりました。しかしその後、米10年債利回り は、FRB高官からタカ派寄りの発言があったことで上 昇に転じ、概ね前日と同水準まで戻りました。

米消費者物価指数の推移



期間: 2004年1月〜2021年12月、月次 (注)コアCPIはエネルギー、食品除く (出所)Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米10年債利回りと為替の推移



期間: 2019年12月31日~2022年1月12日、日次 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント

1月14日 米小売売上高、米鉱工業生産指

数 (12月)

1月26日 米金融政策発表



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。